

高齢化や後継者不足が叫ばれている農業の現場に飛び込み、チャレンジする若き就農者に迫ります。



Profile

スマイルファーム
代表 村地 薫さん

1983年生まれ。倉橋部町在住。農協職員や会社員を経て、2019年3月、県立農業大学校就農科卒業。令和2年3月から、自宅近くの2棟(約800㎡)のビニールハウスできゅうりを栽培し、今年で就農2年目を迎える。

おいしいきゅうりの見分け方

まずは見た目をチェック。太さが均一なものほど良品です。次に、実際に手に取り、ハリがあり重量感のあるものは、しっかりと水分がたまっている証拠。イボがある場合は、チクッと痛いぐらいに鋭くとがっているものが新鮮です。



村地さんのきゅうりも「水郷ブランド農産物」です!



「水郷ブランド農産物」をご存じですか?

市では、化学合成農薬・化学肥料を慣行使用のおおむね5割以下に抑え、景観形成や琵琶湖と水郷の水環境に配慮し、安全性の高い農産物づくりを目指す基準に基づき栽培された農産物を「水郷ブランド農産物」として承認しています。承認したものは、「江州水郷」のマークを表示することができます。

地元で作られる、安全安心で新鮮な旬の農産物を食べて、地産地消を推進しましょう。

きゅうり農家の挑戦
みずみずしい感性が生み出す大地の恵み

「きゅうりは、毎日収穫できることが栽培の魅力の一つ」と話す村地さん。旬を迎える夏場には、朝夕で1日に2回収穫することも。収穫したものは、インターネットでの販売やスーパー、道の駅の直売所などで販売しています。

「作物は素直で、自分の心の持ちようが作物にも表れます。だから、常に心に余裕があるペースで作業するよう心がけています」と日々の農作業を振り返ります。

「農業は、人間本来の自然な姿に戻ることができる仕事。自分が選んだ作物に自信を持ってください。そして、自分にも日々言い聞かせていることでもありますが、「一生の仕事として長く続けてほしい」と思っています」と農業を志す人たちに呼びかけます。

「光や温度などの季節の影響を考えながら、収量と秀品率(全収量の中で良品が占める割合)のバランスをとることを心がけています」と村地さん。2棟のビニールハウスで1年を通じて栽培し供給できるよう、交互に収穫を繰り返す周年栽培を実施。収量や病気への強さに違いがある2種類の品種を栽培しています。また、収穫の期間や量、秀品率、栽培の難易度に違いがある「摘心栽培」と「つる下げ栽培」の2種類の栽培方法を使い分けています。堆肥には、近くの牧場から調達する近江牛の牛糞を主に使用するなど、自然循環式農業を実践しています。



読者プレゼント

スマイルファームのきゅうり入り「きてか〜な」旬の野菜セット

10名様



応募方法 ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号・特集記事に関するご意見ご感想を明記し、ご応募ください(1人につき1通のみ有効)。

宛先 〒523-8501 桜宮町236 農業振興課内 「広報11月号プレゼント」係

※当選発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。
※賞品発送のために、個人情報を賞品提供事業者「きてか〜な」に提供しますので、ご了承ください。

10種類の野菜を1箱にまとめ、12月中旬にお届けします。
※写真の内容とは異なります。
応募締切 11月30日(火) 必着

【特集ページのお問い合わせ先】 近江八幡水郷の食材と食プロジェクト会議事務局(農業振興課内) ☎(36)5514